

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900034		
法人名	医療法人社団 恵慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム日下部		
所在地	千葉県香取市府馬3490-1		
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成22年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法・園芸療法・レクリエーションの3つの活動を柱に、季節を意識した年間予定を立てて利用者と職員と一緒に取り組んでいます。音楽療法では歌唱だけでなく、お一人ずつ担当の楽器があり、熱心に練習されています。園芸療法では、畑での野菜作りや季節の花を植えたり、土との触れ合いを大切にしています。収穫した作物は食事やおやつで提供しています。レクリエーションでは、懐かしい遊びや言葉遊びを行ったり、梅干やらっきょう作り等その季節ならではのものを、利用者に教えてもらいながら作っています。季節に合わせた外出行事も行っていきます。また毎月、地元のボランティアバンドが来所し、音楽を通じての交流を深めており、地域の皆さんが、気軽に立ち寄ってくださる様なあったかいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム日下部は小規模多機能型居宅介護日下部ホームと併設で、医療法人社団恵慈会が平成19年に設立した地域密着型の施設である。生活の中に音楽療法や園芸療法、レクリエーション等のアクティビティーを取り入れ、「おおくすの郷(同法人運営のクリニック併設の老人保健施設)」とも医療面等で連携を取りながら、最期まで自立して過ごせるように取り組んでいる。利用者の平均年齢は85歳であるが、センスの良い服装やおしゃれを楽しみながら元気に過ごしている方が多い。日下部ホームの大浴場やリフト浴は毎日利用出来、利用者同士の交流や行事を共催するなど、一つ屋根の下の大変良い関係で地域に密着した運営が出来ている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な環境のもとで、日常生活への支援を通じて安心と尊厳のある生活を営むことができるようサービスを提供します』を理念とし、申し送り等で日々確認するとともに実践するためのアイデア出し合っている。	地域密着型サービスにふさわしい理念を持ち、事業所内に掲示すると共に、日々現場での事例ごとに理念に沿った対応を話し合い、共有している。毎月の法人主催の会議でもその精神を理事長から直接学んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽ボランティアバンドが来所し、音楽を通じて交流が図れている。また、地域のお祭りには休憩所として、小・中学校には職業体験の場として提供させていただいている。	当ホームは認知症の方を地域で支える取り組みや小中学生の職業体験の受け入れなど、様々な形で地域に貢献をしつつ、祭りや行事への相互参加、ボランティアの来所など交流をはかっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域支援体制構築モデル事業の拠点として、会議の場所を提供させていただくとともに、コーディネーターとして参加し、認知症の方を地域で支える取り組みをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヶ月に1度開催し、利用状況・行事報告(レクリエーション、音楽・園芸療法)、ヒヤリハット・事故報告等の実績報告を行っている。また、メンバーの各立場から貴重なご意見をいただき、施設運営に活かしている。	併設の日下部ホームと一緒に本年度は3回開催した。毎回地区の健康福祉課の職員や地域代表、家族代表等10名強の参加を得て、事業所の運営状況の説明や意見交換を行ない理解を深めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法等の解釈や運用について随時相談や指導を受けたり、パンフレットを持って訪問する等コミュニケーションを図っている。市町村主催の研修会等にも積極的に参加している。	当事業所は「認知症地域支援体制構築モデル事業」の拠点となっており、地区行政と協力しながら活動している。また、香取市介護保険課とも随時連携を取り、特に市主催の研修会や行事には積極的に参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を開催する等して学ぶとともに、日々の申し送りでも身体拘束を行わないことを徹底している。防犯・安全確保の為、玄関は施錠しているが、外出は自由であり、外出時には職員が付き添うようにしている。	県主催の身体拘束排止の研修には毎年積極的に参加し、ホームでも伝達研修を実施して理解を深めている。夜間の安全対策としてベット柵が必要な利用者にはセンサーマットを使用するなど身体拘束にならない方法で対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護リーダーや身体拘束廃止研修専門課程・基礎課程修了者が、内部研修会を開催する等して常日頃から注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束廃止とともに研修会を開催している。 利用者に必要であるか話し合いを持っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、改定時には十分な説明を行い、ご理解していただいてから契約している。契約解除時にも、十分に説明を行い、ご理解・ご納得していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の要望や意見を個別に伺い、改善に取り組んでいる。また、運営推進会議にも参加していただき、外部者へ表せる機会を設けている。	頻繁に来訪される家族が多いので、必ず管理者か計画作成担当者が対応し要望や意見を受け止めるようにしており、アンケートにも「家族的でいつも温かく迎えてくれる、安心して利用出来る」等と家族の感謝の声が多い。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、理念や行事、シフト、ケアの仕方等について、その都度意見や提案を聞いている。また月に1回ミーティングを開催し、意見を述べる機会を設けている。	事業所内ではホーム長を中心に毎月全職員参加の定例会議や、各種ミーティングを随時行い話し合っている。又、毎月同じ法人のおおくすの郷で理事長を交えた合同会議があり、又理事長は随時事業所にも顔を出すなど職員との交流に努めている。	事業所は人材育成に積極的に取り組んでおり、向上心を持って働いている職員が多い。今回の外部評価も人材育成の一環として、職員の活発な意見表出の機会となることを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握するよう人事考課を行っている。また、必要に応じて環境や条件の整備を行っている。 今年度末に管理者が個別面接を実施予定。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を立て、実施している。また、外部の研修へも積極的に参加している。管理者等は、日々のケアの中で、職員の力量を把握し、個別に指導・助言している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び介護支援専門員は、市の地域密着型サービス連絡会やネットワーク会議等に参加し、職員も市主催の研修会へ参加する等、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分に話す時間を設け、また入居前の居宅介護支援事業所からも情報を得ている。コミュニケーションを密にとり、安心していただけるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話す時間を確保し、安心と信頼を得られるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞き、必要があれば他のサービスの説明を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことやしきたり等を教えていただいたり、家事作業を入居者の状況を見ながら共にやっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、その都度近況報告をし、情報交換を行っている。毎月、利用者の近況報告書に、暮らしがわかるよう写真を添えて郵送している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問も受け入れ、来所時には本人の居室でゆっくりと過ごせるように配慮している。また、手紙には返事を書く支援をしている。	利用者の家族や友人知人の訪問時にはゆっくり居室で過ごしてもらえよう配慮している。毎月の家族への報告は利用者の生活を詳細な記録として送付し、利用者毎の写真と同封する等工夫している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のコミュニケーションの中で、利用者同士の関係を把握し、必要に応じて見守り声掛けを実施している。また、座席や外出のグループ分け等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、長期入院により退居された方が1名いたが、また介護サービスが必要になった際は相談や支援を行う旨を伝えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、お一人おひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	計画作成担当者は利用者、家族の見学、相談時から心身状況や生活状態などを把握し、意向や希望の把握に努めている。入居後、職員は生活の中での些細なことにも目を配り利用者の表情からも思いを捉え、記録し、情報の共有を図っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞くとともに、入居前の居宅介護支援事業所から情報を得て、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録及び、申し送りで現状を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望や意見をいただき、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。	職員は毎日の利用者の経過について一目でわかるような工夫し、情報の共有を図りながら介護計画に沿った介護を実施している。毎月利用者毎の担当職員がモニタリングし、計画変更時には職員全体のカンファレンスで評価し更新している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に暮らしの様子や気づきを記入し、職員はケース記録を確認し情報を共有している。ケア方法の変更や工夫については毎日の申し送りや申し送りノートで情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の利用者の状態や状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源は把握していない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関に受診している。協力病院への受診は看護職員が付き添い、その他の病院への付き添いは家族が行っている。家族の付き添いが困難な場合は職員が行っている。	以前からのかかりつけ医受診については家族が対応しているが、家族ができない時や協力医の受診は看護師が同行している。また往診、歯科受診も実施している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関りの中での気づきや状態の変化等は看護職に報告・相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、当日中に病院へ行き、情報交換に努めている。入院中も面会へ行き、病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に関する指針を示し、説明・同意していただいている。	重度化に向けた指針は入居時説明し、利用者、家族から同意を得ている。今までに事例がないため実際に看取りが必要となった時には利用者家族と話し合い、検討をすることとしている。ホームとしては看取りについて特に具体的な取り組みはしていない。	重度化に向けた指針はしっかりと明文化されており、利用者、家族にとって心強いと思われる。今後は重度化や看取りについて職員に向けての研修等、具体的な取り組みに期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について、研修会を開催した。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成21年12月18日に消防署立会いの下、避難・消化・通報訓練を実施した。また、災害時の対応について、研修会を開催した。	ホームは消防署の指導の下、年1回避難訓練・職員研修を実施している。夜間は小規模多機能型の利用者の対応(他に宿直者)も含み夜勤者が一人となる状況である。	ホームはさらに地震や夜間対応など必要な災害訓練ができるよう工夫をいただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った声掛けや対応を行っている。	職員は利用者の居室に入る時や更衣の時には声をかけるなど同意を求めるようにしている。またトイレや入浴については利用者の羞恥心への配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えやすいように、日頃の関りの中で、コミュニケーションを密にとっている。出来るだけ多くの選択肢を用意し、自己決定出来るよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、その日状態や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から使っていた化粧品や、整髪剤を使って身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理職員が行っている。定期的におやつ作りを一緒に行っている。職員も一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事している。	食事の準備、調理は厨房係りが行っている。配膳、下膳については職員が手伝うことが多く、利用者は食器を片付ける程度である。利用者はホームの焔で採れた新鮮な野菜を楽しんだり、レストランのバイキングに出かけている。	職員は利用者の能力に合わせて食器を片付けてもらうなど配慮しているが、さらに利用者のできることを引き出せるよう参加の工夫をいただきたい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取量を記録し、把握している。摂取不良時は、形態やメニューの変更、また声掛けの工夫等で摂取量の向上に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施の声掛けと誘導、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握と定期的な声掛け・誘導を行っている。	職員は利用者毎の排泄リズムをもとに適切なトイレへの誘導を実施している。その結果入居時おむつやバルーンカテーテルを使っていた利用者が日中パッド程度まで改善した。夜間トイレまで行けない利用者はポータブルトイレを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の提供や運動など、出来るだけ自然排便出来るよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や回数、入浴日等決まってはいるが、本人の希望や体調等に合わせて柔軟に対応している。	利用者は一日おきに午後入浴している。入浴したがる方には無理強いせず、時間をずらすなど工夫している。ホームの浴室は個浴であるが、施設内の小規模多機能型の広い浴室での入浴を楽しんだり、リフト浴を実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望に添って、休息がとれるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が管理を行い、内服の目的や副作用、用法・用量について介護職に申し送りを行っている。ケース記録に薬剤情報提供書を添付し、いつでも確認出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等を職員と一緒にしている。音楽・園芸療法に取り組み、入居者も楽しみにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に合わせて散歩にお連れしたり、家族と協力して外出出来るよう支援している。季節に合わせて、外出行事も行っている。	利用者は日常的には散歩やテラスでの外気浴をしており、庭の一角にある畑仕事を楽しむ利用者もいる。外出の希望があれば職員が付き添うよう努めている。季節により近隣のドライブや祭りに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭管理を行っているが、本人の希望があれば、お小遣い程度の金額を所持していただくこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談しながら、電話や手紙の返事を書く支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節に合った飾りを作り飾ったり、玄関や中庭に季節の花を植えたりしている。	共有の空間は明るく、清潔に保たれており、容易にテラスに出て外気に触れることができ心地が良い。施設内の小規模多機能型との間もオープンで開放感がある。ホーム内には様々な絵画が飾られ、また入居者が職員と共に作った作品も季節感を添えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファやテーブル等でテレビを観たり、お話をしたりして過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に声をかけているが、馴染みの物を持ち込んでいる入居者があまり居ない。	ホームからは利用者、家族に使い慣れた家具等の持込を呼びかけているが、あまり持ち込まれていない。居室内は明るく住みやすい雰囲気はあるが、やや殺風景な感じである。	今後もいろいろな機会に利用者の使い慣れた物や好みの品を持ってきてもらうよう声をかけていただきたい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下及び居室にも手摺りが設置され、ドアは横開きで、入居者が安全の移動出来るようになっている。		